

欧米言語ゼミナール (その4)

2 units 3rd-year(2nd semester), 4th-year(2nd semester)

Takayoshi Miyazaki · PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間—嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超越しての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。4年次では、卒業論文の作成を念頭に置きながら、設定したテーマをいかに論考してまとめてゆくかを具体的にを行う。

Outline) 19世紀イギリス小説の世界

Keyword) イギリス小説, 作品理解

Fundamental Lecture) “英米文化研究 I (その1)”(1.0), “英米文化研究 I (その2)”(1.0)

Relational Lecture) “英米の社会と文化 II (その1)”(0.5), “英米の社会と文化 II (その2)”(0.5)

Notice) 受講生のみなさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくので積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

Goal) 文学作品とその社会的文化的意味についての理解を深めた上で、設定したテーマを論文としてまとめる。

Schedule)

1. 具体的には19世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたいが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言葉芸術の幅広さ、深さを理解することを目標としたい。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。
2. 第1回 これまでの総括
3. 第2回～第7回 研究のまとめ方
4. 第8回～第15回 研究のまとめ方と文献資料のまとめ方
5. 第16回 総括

Evaluation Criteria) ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

Re-evaluation) 行う

Textbook) 適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

Reference) 参考資料は授業時に適宜配布する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218454>

Contact)

⇒ Miyazaki (3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office)
Hour: 火・木曜日 12時～13時

Note) この授業科目は8単位まで履修することができます。